

薬剤師生涯学習の目標「生涯学習社会」の実現 — その形と行動

内山 充

薬剤師の生涯学習については、大学から卒後生涯にわたる Seamless な(継ぎ目の無い)一貫した学習の確立を目指す動きが国際的にも定着しつつある。そして、最終目標として、生涯学習の成果が重視され、それが報われる社会である「生涯学習社会」の実現が唱えられている。しかし、「生涯学習社会」の具体的なイメージや、それに行き着くための具体的な行動は、まだ十分に理解されているとは言い難い所がある。

先ず全体像だが、大学教育は、薬剤師国家試験に合格させることだけに満足せず、生涯学習は、資格や称号など肩書を得ることだけに捉われることなく、専門倫理を身に付けた真に優秀な薬剤師を育て、学んだ人たちの努力に実質的に報い、それらの能力を人びとのために最大限に発揮できる社会システムが、「生涯学習社会」の姿であろう。その形と、その中で個々の薬剤師の取るべき行動を、全員で考え、自分たちの手で自律的に実現させることが、薬剤師の将来を支える重要な鍵となる。

薬剤師は、これまでの世論調査では、誠実性と倫理性については比較的の高い評価を受けてきた。今後さらに、能力・適性によっても高い社会的信頼を得るようになるためには、生涯学習の推進に加えて、薬剤師免許の更新制の実施が、何を措いても最も効果的なのだが、国の施策や行政の指導を待っている、他の国家資格との整合性が邪魔をして、実現のめどが立たない。国による制度ではなく、生涯学習履歴の証明を指標とした、実質的免許更新制を、まず職域・地域を限定してでも実施することを提言したい。

すなわち、実務に従事している薬剤師は、各自が、最近話題になっているプロフェッショナル・スタンダードなどを参考にして、まず目標とする薬剤師像を描く。それに向けての自己評価や進捗状況を確認するために、学習記録帳(ポートフォリオ:生涯研修プロバイダー¹⁾)や職能団体において作成・配付しているものを活用可能)をもち、自分に必要と思われる学習内容を、様々な媒体から全国視野で選んで研修を受け、その記録を正確に行うことがまず大切である。記録された学習成果については、プロバイダーから証明を受ける(現状では認定証の形)とともに、それを職域・地域の管理権限者等が的確に評価して、その職域・地域内で薬剤師として活動する資格を認め、キャリア(職務)を保証するというかたちである。実務従事薬剤師のための、自主的、自律的な制度として、地域や職域で、部分的にでも発足することが出来れば、高い社会的信頼を得ることが出来る。

¹⁾質の高い研修制度を提供しているとして第三者評価を受けた研修実施機関

次に、実務における行動としては、チーム医療での薬剤師の専門性を生かした医療介入と、在宅療法を含む地域保健医療体制への薬剤師の参加であるが、いずれも相手(他の医療職や患者)のある話であって掛け声だけでは始まらない。薬剤師に何か質問、相談、協力を求めたい時にはいつでも声をかけられるようなルートや窓口を、病院内にも地域にもはっきり分かるように設置することと、自分の得意な分野を分かりやすく広告宣伝することが基本である。患者の立場で入院などしてみると、それらが欠けていることを実感する。その方法や媒体については知恵を出し合い、良いアイデアが、職能団体を通じて全国に広がることを期待したい。

(2011. 2. 9)